

ATEM Newsletter

ATEM公式サイト <http://www.atem.org/>

May, 2022
No.42

支部・委員会活動報告特集

発行 : 映像メディア英語教育学会事務局
(旧映画英語教育学会)
住所 : 〒605-8501
京都市東山区今熊野北日吉町 35
京都女子大学 文学部
横山仁視研究室内
E-mail : office@atem.org
郵便振替 : 00820-3-1477

映像メディア英語教育学会 / The Association for Teaching English through Multimedia

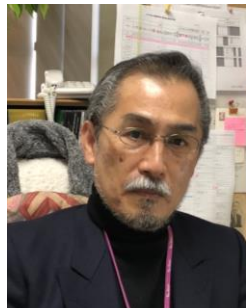
■会長挨拶

ATEM President

YOKOYAMA Hitoshi
(Kyoto Women's University)

ATEM 会長

横山 仁視 (京都女子大学)



日頃は ATEM の活動に対してご理解とご協力ならびに貴重なご意見をお寄せいただきお礼申し上げます。

コロナ禍における教育・研究活動も 3 年目の春を迎えました。対面での前期授業を開始できた教育現場も多かったのではないのでしょうか。私の本務校でも、感染予防対策は徹底したうえで全学的な対面授業をスタートさせることができました。やはり学生が集まってこそそのキャンパスであることを実感したのは、私だけでしょうか。

本号では本年度の全国大会についての骨子をいち早く会員の皆様にお知らせするとともに、前号で案内した 3 本の矢 (企画) についての情報を提供いたします。前者については、本号および学会ホームページをご参照下さい。後者については、前号 NL.41 において、学会活動に新たな「動き」を与えるために次の 3 つの計画を提示しました。

1. ワークショップやシンポジウムの復活。
2. 本部企画による OOPS (Open Online Presentation Series) の開始。
3. 姉妹学会である STEM との教育・研究共同企画の推進。

1 については、支部企画・SIG 企画・本部企画のいずれかの形態で、いくつか計画中です。3 については、個人レベル

において実践している事例がありますので、会員の皆様に広く知ってもらおうべく事例発表の機会を模索しております。今後姉妹学会との新たな共同企画が旗揚げされる日を楽しみにしています。

2 については、以下の通り本年度前期分の予定をお知らせします。ご承知のように、2020 年 4 月の COVID-19 蔓延により ATEM は対面の学会・研究会活動および姉妹学会 STEM との対面交流ができなくなりました。そういう中で北海道支部がいち早く対応し、支部企画 OOPS! を立ち上げ、2 年近くに渡り STEM との学術交流が続きました。しかし、この 3 月には STEM 名誉会長である Dr. LEE のご発表をもっていったん終了となりましたので、今回、本部企画 OOPS として、装いを新たにスタートすることにしました。支部横断的、学際的な会員の発表はもとより、ATEM 以外の研究・教育の現場で活躍されている先生を積極的に招くことで、映像メディアを活用した実践的な取り組みを紹介し、意見を交換する場にしたいと考えています。

6 月～8 月は、次の先生方にご発表いただきます。

- ・ 6 月 25 日 (土) 横山仁視 (京都女子大学)
 - ・ 7 月 2 日 (土) 小泉勇人 (東京工業大学)
 - ・ 8 月 5 日 (金) Ryan Spring、中村佐知子 (東北大学)
 - ・ 8 月 31 日 (水) 佐藤美奈子 (京都女子大学非常勤)
- 発表タイトル・時間については改めて会員メールおよびホームページで案内します。皆さまのオンラインでのご参加をお待ちしております。

第 27 回 ATEM (映像メディア英語教育学会) 全国大会

The 27th ATEM (The Association for Teaching English through Multimedia) National Convention

開催日 : 令和 4 年 11 月 5 日 (土) - 6 日 (日) Date: Nov. 5th (Sat) - 6th (Sun), 2022

会場 : オンライン Place: Online

テーマ : 「気づき」を通してコミュニケーション力を高める

Theme: Improving Communication Skills through Multimedia: Focusing on "Perception"

本年 11 月 5 日～6 日、「コミュニケーション力」をテーマに、第 27 回全国大会を全面オンライン (Zoom) で開催いたします。このコロナ禍を契機に、私たちはネットを通して、韓国の姉妹学会 STEM (The Society for Teaching English through Media) を始め国外の研究者と交流を深めてきましたが、今大会でも、各会員の研究発表の中で活発な国際交流が行われることを期待しています。大会 1 日目には各 SIG (Special Interest Group) のシンポジウム、2 日目には賛助会員による教材の紹介も予定されていますので、奮ってご参加下さい。

■ 特別ワークショップ

Perception: The Key to Effective Communication

五感を使った効果的コミュニケーションのすすめ

講師 : MCVAY Paul Chris 先生 (麗澤大学名誉教授)



人と会話する時、コミュニケーションを阻害する様々な「ノイズ」があり、同じ対象でも見る角度によって全く違って見えることをよく理解した上で、五感すべてを働かせて相手の話を聴くことが大切です。今大会では、大学やラジオ講座で豊富な教育経験をお持ちのマクベイ先生に、効果的なコミュニケーションの「コツ」を分かりやすく教えて頂きます。

【講師プロフィール】 英国・ブレスコット出身。オックスフォード大学で修士号を取得 (専門は英語教育)。英国、スペインなどで語学教育に携わった後、東洋女子短期大学助教授、麗澤大学外国語学部・大学院言語教育研究科教授を経て、現在、麗澤大学名誉教授。NHK「ラジオ英会話」講師。『ハートで感じる英文法 決定版』(NHK 出版)ほか多数の著書・共著書がある。

オンライン参加申込受付期限

10 月 20 日 (木)

ATEM ホームページ <http://www.atem.org> の「全国大会」のページよりお申し込みください。

参加費 : 無料

会場 URL : 後日、会員メールにてお伝えします。

【研究発表応募方法】

ATEM ホームページ (<http://www.atem.org>) の募集要項に従い、「会員専用ページ」よりお申し込みください。

※English presentations will be welcomed.

募集期間 : 2022 年 6 月 6 日 (月) ~ 7 月 7 日 (木)

応募資格 : 2022 年度分会費を納入済の ATEM 会員

※会費納入の確認に数日を要しますので、早めにご納入ください。

2 日間の開催 です!

詳細は、発表者決定後、ATEM のホームページに掲載します。

プログラム

11 月 5 日 (土) 1 日目

14:30-14:40	開会式
14:45-15:15	STEM 特別発表
15:20-16:20	SIG シンポジウム 1
16:25-17:25	SIG シンポジウム 2
17:30-17:50	総会(会員のみ)

11 月 6 日 (日) 2 日目

10:00-10:25	研究発表 1
10:30-10:55	研究発表 2
11:00-11:25	研究発表 3
11:30-11:55	発研究発表 4
12:05-12:20	賛助会員発表 1
12:20-12:35	賛助会員発表 2
12:35-12:50	賛助会員発表 3
12:50-13:05	賛助会員発表 4
13:15-13:40	研究発表 5
13:45-14:10	研究発表 6
14:15-14:40	研究発表 7
14:45-15:10	研究発表 8
15:15-15:40	研究発表 9
15:50-17:05	特別ワークショップ
17:05-17:10	閉会式

■支部だより■

[北海道支部]

◆2021年12月18日に、カジュアルな研究発表の場として始まった日本語版 JOOPS Café と忘年会／懇親会を開催しました。北海道支部会員を中心に13名の参加者があり、充実した情報共有の時間となりました。

◆2020年4月から始まった OOPS! (Open Online Presentation Series) は2022年3月1日の開催をもって、北海道支部主催のものとしては終了しました。最終回ではSTEM 名誉会長の LEE Jawon 先生にもご発表いただき、記念すべき回となりました。毎月一度も休まずに継続開催ができ、また毎回、20~50名近くの多くの方にご参加いただきました。ご参加いただいた皆様に、改めて感謝申し上げます。

◆2022年3月5日には、10回目となる支部大会を「ダイバーシティと映像メディア」というテーマのもと開催いたしました。アプローチは違うものの、ほぼ全ての発表でダイバーシティに関連する内容を盛り込んでいただき、テーマを最大限に生かした会となりました。支部としてテーマを掲げた大会は初のものでしたが、全10件の口頭発表があり、総数35名の方にご参加いただき、成功裏に終わりました。10時から始まり、大会終了後の交流会も含めると17時半に終了するという長いスケジュールでしたが、ご参加いただいた多くの方に感謝申し上げます。

(支部長：斉藤 巧弥)

本部企画 OOPS 始動！

映像(マルチ)メディアの活用の仕方について、オンラインで意見交換をする機会です。ぜひ一度お立ち寄りください。

- ・6月25日(土) 横山仁視(京都女子大学)
- ・7月2日(土) 小泉勇人(東京工業大学)
- ・8月5日(金) Ryan Spring、中村佐知子(東北大学)
- ・8月31日(水) 佐藤美奈子(京都女子大学非常勤)

[東日本支部]



オンライン東日本支部大会の様子

◆第12回東日本支部大会(オンライン)を3月13日に実施し、横山会長をはじめ様々な支部の会員にご参加いただきました。ありがとうございました。題目は以下の通りです。

①石油、家族、血—Paul Thomas Anderson の *There Will Be Blood* (2007)を英語・リベラルアーツの授業で教える場合について(日影 尚之)

②*The Color Purple* (1985): A Woman's Self-Realization and the American Women's History around the Early 20th Century (Satomi YOSHIMUTA 先生)

③映画『ラスト・クリスマス』(*Last Christmas*, 2019)に観る文化諸相(塚田 三千代 先生)

④映画『グラン・トリノ』に見る異文化理解と社会的背景(呉 春美 先生)

⑤辞書開発の観点から見た COVID-19 の語法分析(山本五郎 先生)

⑥Use of interactive videos in university EFL learning (Ryan SPRING, Shizuka SAKURAI, Sachiko NAKAMURA 以上3名の先生)

今年度の支部活動については決まり次第メールやホームページ等でお伝えします。

(支部長：日影 尚之)

[中部支部]

◆2021 年度の中部支部大会はコロナ禍で大変な折でしたが、スクリーンプレイ社のご協力のもと対面で開催いたしました。三件の発表と一件のディスカッションといった内容で、大変有意義な大会となりました。一件目の発表では、山崎僚子先生（名古屋学院大学）が「ポップスと ICT を活用した授業実践と今後の課題」というタイトルで、ICT を用いながら、音楽を使った授業の実践報告をされました。二件目は寶壺貴之先生（岐阜聖徳学園大学）で、「体育会学生が興味をもつ映画を利用した英語学習法」と題して、映画『人生の特等席』（2012）を使いながら、学生の興味を引く授業運営の仕方をご提案されました。発表の最後は都築雅子先生（中京大学）で、「歌を活用した英語授業— 日英語の捉え／描写の傾向の違いに焦点をあてて」というタイトルで、日本語と英語における話者の視点の位置の違いを確認しながら、英語歌詞を分析する授業法をご報告されました。その後ディスカッションに移り、英語の歌を使ったさまざまな授業法に関する議論が、活発に行われました。ご参加いただいた方々と場所をご提供いただいたスクリーンプレイ社の皆様のご協力のおかげで、何事もなく閉幕を迎えることができました。

（支部長：井土 康仁）

[西日本支部]

◆2022 年 3 月 19 日（土）に、第 18 回西日本支部大会をオンラインで開催しました。特別講演では岐阜大学の巽徹先生をお招きし、昨年度より全面实施となりました新学習指導要領を踏まえ、言語活動を重視した授業実践や ICT の活用についてご講演いただきました。西日本支部では 3 年前より著作権勉強会を立ち上げて活動してまいりましたが、今年度は、フォーラムという形で先生方から著作権に関する質問を募集し、それらをもとに昨年度に引き続き、著作権の専門家である大阪工業大学の甲野正道先生にお話をいただきました。また、西日本支部の資格英語 SIG グループのメンバーである福井美奈子先生（京都産業大学）と衛藤圭一先生（京都外国語短期大学）による企画

ワークショップに加え、立命館大学の塩見佳代子先生と中国学園大学の松浦加寿子先生による映像メディアを活用した実践的な取り組みの発表がありました。令和 4 年度からは、支部役員体制が変わりますが、支部発足 20 周年を迎えますので、記念となる行事等を企画していきたいと考えております。

（支部長：近藤 暁子）

[九州支部]

◆2021 年 9 月 4 日（土）に第 23 回九州支部研究大会を実施しました。当日はシンポジウムが 1 件と、研究発表が 3 件ありました。福岡、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄と、九州各地域からご発表いただいたことが、オンライン大会としての今回を象徴する出来事だったように思います。また、映画音楽から社会問題を考える研究、看護系学生を対象とした英語教育の実践、パブリックアドレスにおける表現の変化に関する研究、そして映画のエンドロール後の「免責事項」からその時代のイデオロギイを読み解く取り組みなど、多様な観点でのご発表があり、充実した支部大会となりました。会場には九州支部会員の方々はもとより、全国各地から大勢のご参加をいただきました。対面での実施がかなわなかったのは残念ですが、オンラインならではの良さを感じられる大会となりました。

◆2022 年度の支部大会は 8 月 27 日（土）にオンライン開催（Zoom）します。皆様のご発表&ご参加をお待ちしています。

◆九州支部では Twitter で学会に関する情報や映画に関するコラム等を発信しています。ID は「@9atem」です。ぜひフォローをよろしくお願いします。



オンライン九州支部大会の様子

（支部長：吉村 圭）

■委員会だより■

【国際交流委員会】

◆コロナ禍の影響で STEM 国際大会は 2020 年度以来開催されておりませんが、今年度も引き続き開催が見送られる予定です。代替イベントとして、STEM では毎月中旬に Zoom でオンライン・プレゼンテーション (SVP: STEM Virtual Presentation) を開催しています。開催日時と発表内容は、会員メールでご案内いたしますので、どうぞご自由にご参加ください。

◆新年度からの新たな国際交流委員として、北海道支部は遠藤未央先生 (藤女子高等学校) に、中部支部は堀内ちとせ先生 (藤田医療大学) に、また九州支部は松尾祐美子先生 (宮崎公立大学) に、それぞれご就任いただくことになりました。

(委員長：井村 誠)

【会員管理委員会】

◆今まで利用していた会員管理システムに代わり、会員管理クラウドシステム MiiT+ (ミータス) を導入いたします。旧会員管理システムではバージョンが古くなっていたため、一斉メールの配信ができないなどいくつかの障害が発生しておりました。MiiT+では、従来の機能である一斉メールの配信や会費納入状況の把握に加え、旧システムにはなかった新たな機能も活用することができます。MiiT+の利用にあたって本人認証を行う必要がありますが、MiiT+の一斉メール送信元「ATEM (映像メディア英語教育学会) メール」から、「仮ログイン ID」および「仮パスワード」が会員の皆様に送信されますので、それらを使って、ATEM (映像メディア英語教育学会) 本人認証画面 <https://miitus.jp/t/ATEM/login/temp/> から、本人認証の実施をお願いいたします。上記の URL 内一番下の「仮ログイン ID 入力」をクリックすると、「仮ログイン ID」「仮 Password」「Email アドレス」を入力する画面が出てきますので、それぞれご入力をお願いいたします。その後「電話番号」を入力する画面が出てきます。ATEM に登録している電話番号 (登録していない場合は 000-0000-0000) を入力していただきますと、先に画面が進みます。さらに指示に従って入力をしていただきますと、本人認証ができ、MiiT+にログインすることができます。一斉メール配信

に関しましては、従来の Gmail メーリングリストと MiiT+のメール配信機能をしばらく併用していく予定ですが、最終的には MiiT+に一元化していきたいと考えております。

(委員長：嘉来 純一)

【ICT委員会】

◆本部サイトの全面的な更新を行ってからおよそ一年が過ぎました。会員の方のみならず広く一般の方々に学会の活動を知っていただくためにも、今後も分かりやすく魅力的なサイトの構築、運営に努めてまいります。また新たに広報・連携推進担当の本部専務理事に就任された松田愛子先生とも連携をさせていただき、様々な媒体を利用した広報活動の推進にも尽くす所存です。

(委員長：巳波 義典)

【大会運営委員会】

◆今年のATEM全国大会は、11月5日～6日の2日間、全面オンライン (Zoom) で開催されます。大会1日目にはSTEM会員による特別発表、各SIG (Special Interest Group) によるシンポジウム、およびATEM総会、2日目にはATEM・STEM会員の研究発表、賛助会員による教材の紹介、マクベイ先生 (麗澤大学名誉教授、NHKラジオ英会話講師) の特別ワークショップなどが予定されています。今年も盛会になりますよう、各会員・各支部のご支援ご協力をお願い致します。

全国大会の詳細は本部ホームページに掲載します。

<http://atem.org/27th.html>

※<http://atem.org> トップメニュー「全国大会」→「第27回 ATEM 全国大会」からアクセスできます。

※会員は全国大会の参加申し込みを本部ホームページ「会員専用ページ」から行ってください (本紙 p.8 参照)。

(委員長代行：藤枝 善之)

【著作権問題専門委員会】

本委員会では、「オンライン大会・研究会での映像使用に関する著作権ガイドライン」および「学校のオンライン授業での映像使用に関する著作権ガイドライン」を策定し、理事会の承認を経てホームページ (「委員会」のコーナー) に掲載しております。

(委員長：藤枝 善之)

【ジャーナル編集委員会】

◆ATEM ジャーナル第 27 号には、全国の各支部から合計 8 編の論文（日本語論文 4 編、英語論文 4 編）の投稿がありました。改めまして、ご投稿くださいました会員の皆様に御礼申し上げます。また論文の審査には 13 名の査読委員の皆様のご協力を賜りました。お忙しいところ審査いただき、御礼申し上げます。厳正なる審査の結果、7 編の論文（研究論文 5 編、教育実践報告 2 編）が掲載されることとなりました。分野別では、教育 3 編、文化 2 編、言語 1 編、文学 1 編です。さて、ここ数年、論文の投稿数がやや減少傾向にあります。次号につきましては、より多くの会員の皆様からの論文のご投稿をお待ち申し上げます。

◆今年、STEM（韓国姉妹学会）との 20 周年を記念したジャーナルの制作が予定されております。また ATEM 会員が STEM ジャーナルに論文を投稿する際の新たな基準についても、国際交流委員会や STEM と検討していく予定です。いずれにつきましても詳細が決まり次第会員の皆様にお知らせいたします。こちらにつきましても投稿をお待ちしております。

●ATEM 論文リンク集●

J-STAGE で閲覧が可能な、ATEM ジャーナル『映像メディア英語教育研究』掲載論文および研究報告は下記よりアクセスできます。

<http://atem.org/papers.html>

（委員長：足利 俊彦）

【広報委員会】

◆いつも本紙への情報提供にご協力いただいております皆様に、心よりお礼申し上げます。本紙は年 2 回、春夏号と秋冬号を発行しております。昨年度より、秋冬号はオンライン版のみで、紙版の郵送はしなくなりました。バックナンバーは、PDF 版を本部ホームページでご覧いただけます。

◆2022 年の全国大会もオンライン開催になりました。大会中 Zoom 画面の写真を撮影し、本紙や学会本部ホームページで使わせていただきますので、ご都合が悪い場合はカメラをオフにしてください。皆様のご協力に感謝申し上げます。

（委員長：秋好 礼子）

■会員著書(2021 年度)

- 小林敏彦『モジュール型英会話質問攻め編』ネクパブ・オーサーズプレス
- 横山雅彦／中村佐知子『スピーキングのためのやりなおし英文法スーパードリル 英語のハノン』初級・中級・上級 筑摩書房
- 若山典生『高等学校 論理・表現 I be～smart 論』TM いいずな書店
- 武田悠一編、山崎僚子他『ゴシックの享楽—文化・アダブテーション・文学』彩流社
- 赤尾千波他『現代アメリカ社会を知るための 63 章【2020 年代】』明石書店
- 村田希巳子、肥川絹代、吉田禎子、Denis Jonnes『SACHIKO —A Nagasaki Bomb Survivor's Story』英宝社

特別コラム～鈴木雅夫氏（映画英語教育学会一現 映像メディア英語教育学会の前身一創業者、名誉理事）のご冥福を祈って

クラシックスクリーンプレイシリーズ チップス先生さようなら

（フォーイン, 2021）

監修 寶壺貴之

共著 網野千代美氏、その他



洋画セリフを完全収録した、「スクリーンプレイシリーズ」の『チップス先生さようなら』が、2021 年 3 月にフォーインより出版されました。本作品は、映画の字幕の翻訳とは異なり、英語学習者を対象とした学習参考書として翻訳された作品です。ATEM 中部支部の会員が中心となって制作いたしました。セリフの対訳や英文法の詳細な解説はもとより、映画の内容理解を助ける情報・コラムも数多く付されております。『チップス先生さようなら』は、1939 年公開の映画でイギリスのパブリックスクールを舞台に、生徒たちにとっても慕われたチップス先生の人生が描かれた名作です。教師としてのチップス先生の生き方が描かれ、教訓となるセリフも多いので、とりわけ将来教師を目指す大学生の方には、映画と共に活用していただきたいと考えております。

（寶壺 貴之）

■書籍紹介

字幕で味わう
映画の名せりふ“スーパー”英語レジェン
ドの翻訳術に学ぶ

(近代映画社 2022)

藤枝善之 (監修・編著)

飯田泰弘、遠藤未央、呉春美、

荘中孝之、濱上桂菜、原田知子、

寶壺貴之、松田愛子、吉村圭、ラムステン多夏子 (共著)



映画は名言・名文句の宝庫だと言われます。確かに、私のような平凡な昭和団塊世代のハリウッド映画ファンでも、いくつかの名台詞がすぐ頭に浮かびますが、それは英語ではなく日本語（字幕）の台詞を憶えているからです。日本の観客が、原語が分からなくても洋画を楽しく鑑賞できるのは、その字幕翻訳者が原文（本書では英語）を分かりやすい日本語に置き換えてくれているからで、日本人にとって「洋画の名言・名文句」とは、ほとんどの場合「字幕の名台詞」のことなのです。本書では、名台詞が登場する英語圏映画を30本採り上げ、ストーリーや見どころを紹介しながら、それぞれの字幕翻訳者の技と工夫の跡をたどります。

字幕スーパーには様々な制約がありますが、よく知られているものに「1秒4文字以内」

（2秒で5～7字）という暗黙のルールがあります。映画の登場人物が台詞を言い終えるまでに観客が字幕を読み切れるように字数を制限しているのですが、そのために大抵の字幕が直訳の文より大幅に短くなります。しかし字幕は、原文のエッセンスを押さえて短く要約すれば事足りるかという、そうでもありません。「字幕の父」とも呼ばれる清水俊二氏は、その著書『映画字幕の作り方教えます』（文春文庫）の中で、「スーパー字幕は原文に近いのがよい字幕であるとはかぎらない。場面のムード、せりふのリズムにぴったりで、すぐ頭に入る字幕なら、どのような工夫があってもかまわない」と述べています。すなわち、字幕では正確さよりも分かりやすさ、心地よさが優先されるということですが、

これはどういうことでしょうか？一つ、具体的な例を挙げてみましょう。

昭和前期世代にとって忘れられない名字幕の一つは、“Here’s looking at you, kid.”（直訳：「君を見ながら僕は言うよ、ほら乾杯だ、愛しの君」）の字幕「君の瞳に乾杯」でしょう。第2次大戦を背景にして、愛し合う男女の再会と別れを描いたメロドラマの秀作『カサブランカ』（1942年）に登場します。この英語は構文が分かりにくいので、巷には様々な俗説・珍説が横行していますが、実は a toast という語句が省かれ、さらに（「遂行分析」を通して）主節も省かれた分詞構文であることが本書の中で明らかにされています。字幕翻訳者はこの構文を正確に捉えた上で、長ったらしい直訳文を単に3分の1以下に短縮するだけでなく、最高にロマンチックで語呂の良い日本語に置き換えて、字幕の側からも場面の雰囲気盛り上げています。正確さ以上に場面のムード、台詞のリズムを重視しているのです。本作品の劇場公開以後、テレビでの放映やビデオ・DVD製作の際に何度も改訳が試みられましたが、劇場版の高瀬鎮夫訳以上の名字幕は、まだ世に現れていません（ほとんどの翻訳者が高瀬訳を踏襲しています）。

この他に、『第三の男』（1949年）の「今夜の酒は荒れそうだ」（秘田余四郎）、『ある愛の詩』（1970年）の「愛とは決して後悔しない事」（高瀬鎮夫）も名訳として有名ですが、必ずしも厳密な意味で原文に忠実な訳とは言えません。

しかし本書でも述べた通り、両者とも、先に紹介した「場面のムード、せりふのリズムにぴったりで、すぐ頭に入る」という、名字幕の条件を充分満たしていることは論を待たないでしょう。

このように本書は、普段注目されることの少ない字幕スーパーにスポットライトを当て、名訳の名訳たる所以を解説し、名字幕の作成者（翻訳者）にオマージュを捧げています。ATEM会員を中心とする10名の研究仲間（共著者）と共に、本書によって字幕に興味を持つ人が増え、字幕スーパーが英語教育にも幅広く活かされることを心より願います。

(同志社大学 藤枝 善之)



■会員専用ページ（会員管理システム）

「会員専用ページ」は本部ホームページのトップ「会員」から「会員管理システム」へログインしご利用ください。

<http://atem.org>



会員管理システムでは、メニュー「個人のページ」「個人の会費納入状況」「大会情報」「紀要（ジャーナル）情報」から、個人情報の更新、会費納入状況の確認、全国大会の研究発表応募と参加申し込み、ジャーナルへの論文投稿が可能です。 ※不明点は本部事務局へお問合せください。

ATEM Clapper Board



1. 本年度（4月1日～翌3月31日）の会費振込用紙が同封されております。6月30日までにご納入ください。個別の納入状況については、本部ホームページ内にある「会員管理システム」（アクセス方法はこの頁の上部参照）で確認できます。

※振込用紙の通信欄にどの年度の会費かについて西暦の数字を記入して下さい。今年度の会費の場合は

「2022」、昨年度と今年度の会費の場合は「2021-2022」とご記入下さい。

- 今年度中に会員管理システムが変わります（p.5、「会員管理委員会」参照）。準備が整い次第、会員メールとホームページでご連絡いたします。
- 今回は会員著書が多かったため、1冊を除いてp.6にまとめて掲載しております。情報提供につきましても、引き続きよろしくお願いたします。

事務局 office@atem.org

事務局長：藤枝 善之

＜賛助会員一覧＞（50音順）2022.4.1現在

朝日出版社
英宝社
桐原書店
金星堂
国際トラベル京都
国際ビジネスコミュニケーション協会
コスモピア
松柏社
成美堂
センゲージラーニング
モデル・ランゲージ・スタジオ

～編集後記～

- ・お忙しい年度末・年度初めにもかかわらず、原稿作成や校正にご協力くださった皆様、心より感謝申し上げます。
- ・次号（No.43、第27回全国大会特集）は、2023年2月の発行を目指しております。

[NL編集委員会] 2022.4.1現在

委員長：秋好 礼子（九州）

委員：田口 雅子（北海道） 杉浦 綾子（東日本）
井土 康仁（中部） 衛藤 圭一（西日本）
石田 もとな（九州）

©ATEM All rights reserved.

